

人気除草剤に発がん懸念

農業や家庭菜園で世界的に人気の除草剤グリホサホート。
アメリカでは、発がん性が疑われ、訴訟騒ぎに発展しています。

「グリホサホート」はもともと、化学メーカー大手のモンサント社が製造販売する除草剤「ラウンドアップ」(商品名)の主成分。今では様々な商品名で、世界中で使われています。

アメリカでは、そのラウンドアップが原因でガンになったとして、モンサント社に損害賠償を求める訴訟が2015年秋以降、各地で相次いでいます。

カリフォルニア連邦地裁に訴えたのは、野菜農場でラウンドアップを散布する仕事に従事していた50代男性。除草剤が原因で骨肉腫になったと主張しています。

ニューヨークでも、園芸作物を作る会社で働いていた60代の女性が、2012年に白血病を発病したとして、モンサントを連邦地裁に提訴しました。

デラウェア州でも同様の訴訟が起こされています。訴訟が相次ぐ背景には、様々な公的機関や専門家がグリホサホートの危険性を指摘し始めたことがあります。

世界保健機関(WHO)は、2015年3月、過去の研究成果を分析し、グリホサホートは「ヒトに対しておそらく発がん性がある」と結論。5段階の危険度のうち、2番目に高い「グループ2A」に分類しました。

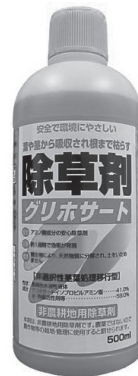
8月には、世界的に権威のあるアメリカの医学雑誌「ニューイングランド・ジャーナル・オブ・メディシン」に、2人の科学者が共同で論文を寄稿。

「規制当局は、誤った時代遅れの研究結果に基づいて、発がんの恐れのある農業の使用拡大を容認している」と指摘し、グリホサホートの使用規制を政府に訴えました。

さらに9月、カリフォルニア州環境保護庁は、グリホサホートを「ガンを引き起こす」物質リストに加える決定を下しました。

ヨーロッパでは、フランスやオランダがグリホサホート入り除草剤をホームセンターで販売することを禁止するなど、規制強化の動きが出始めています。

別の深刻な問題も出ています。



グリホサート耐性の除草剤

アメリカの農場では、グリホサホートを散布しても枯れない「スーパー雑草」が猛烈な勢いで増えています。

農務省はグリホサホート耐性のスーパー雑草が少なくとも14種類に上ることを確認。連邦議会の議員や政策スタッフらが専門家を呼んで意見を聴く会を開くなど、急速に懸念が広がり始めました。

一方、モンサントは、世界保健機関の評価に反論する声明を出し、カリフォルニア州環境保護庁に決定の見直しを強く求めるなど、グリホサホートの安全性を必至になって主張しています。

日本では100円ショップでも販売

グリホサホートは、日本でも、「ラウンドアップ」「グリホサホート」などの商品名で出回っており、ホームセンターや100円ショップで簡単に手に入ります。

(猪瀬聖(ジャーナリスト))

『食品と暮らしの安全』2016.1 No.321より